

# カーネギー分類にみる米国研究大学の コミュニティ・エンゲージメントの動向

大学経営・政策コース 杉本昌彦

Trends in Community Engagement at U.S. Research Universities as seen from the Carnegie Community Engagement Classification

Masahiko SUGIMOTO

The Carnegie Community Engagement Classification is an elective classification that has been incorporated into the Carnegie University Classification since 2006. As it is an elective classification, application is voluntary, but many U.S. institutions applied in 2015 and 2020. And now, in 2022, there are 359 selected institutions which is active now. It can be seen that the percentage of very highly research universities with doctoral courses is extremely high in terms of the number of institutions that have been selected. In order to answer the question of why American research universities are focusing on community engagement, further investigation is needed based on concrete case studies, such as what are the barriers to promoting Community Engagement, or what drives community engagement.

## 目次

1. はじめに  
本研究の背景と目的
2. カーネギー大学分類
  - 2.1 基本分類
  - 2.2 選択分類としてのコミュニティ・エンゲージメント分類
3. CCEC認定経過
  - 3.1 過去の認定機関
  - 3.2 2020年認定
  - 3.3 研究大学の認定状況
4. CCEC分類枠組
  - 4.1 2020年の分類枠組
  - 4.2 2024年認定プロセスと分類枠組
5. まとめと考察

## 1. はじめに 本研究の背景と目的

サービス・ラーニングをはじめとした地域参画を通じた大学での学びは、今日多くの大学で取り入れられている（福留 2019）が、サービス・ラーニングは米国に端を発する教育手法である。筆者は米国研究大学のサービス・ラーニングをはじめとした、学生の地域支援、地域参画を通じた学びの意義に着目し、工学分野を例に専門分野におけるサービス・ラーニングの事例を調査した（杉本 2020）。

この地域参画の取組に関し、近年米国ではサービス・ラーニングも含め、コミュニティ・エンゲージメント／Community Engagement（以下、CEと略す）と呼ぶことが多く、米国の高等教育機関分類であるカーネギー分類でも2006年から、高等教育機関が任意に申請できる選択分類として、カーネギー・コミュニティ・エンゲージメント分類が採用されている。

上記分類を所管するCarnegie Foundation for the Advancement of Teaching (CFAT) は、コミュニティ・エンゲージメントを、「高等教育機関と、それを取り巻くコミュニティ（地方、地域/州、国、世界）とパートナーシップの文脈において、それぞれに有益な知識や資源の交換による連携」と定義している<sup>1)</sup>。

任意の申請に基づくカーネギー大学分類におけるコミュニティ・エンゲージメント分類 (Carnegie Community Engagement Classification: CCEC) の認定は、2006年、2008年、2010年、2015年、2020年になされているが、認定大学の内、カーネギー大学分類でRU: Research Universitiesに分類される大学の認定が確実に増えている。2010年初認定大学115の内、RUは37大学、32.2%、2015年初認定83大学中、RUは29大学、34.9%であった<sup>2)</sup>。2020年認定大学119大学（再認定も含む）の内、DU/VHR (Doctoral Universities: Very High Research Activity) に分類される大学は28大学で、DUに分類される大学は認定119大学の43.7%となっている（表1参照）。

【表 1】 2006-2020CCEC認定状況

表 1-1

認定年	認定大学	再認定	初認定	公立	私立	公立比	RU/VH	RU/H	DRU	RU計	RU比
2006	74	0	74	-	-	-	-	-	-	-	-
2008	120	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2010	121	6	115	61	54	53.0%	14	16	7	37	32.2%
2015	240	157	83	47	36	56.6%	6	14	9	29	34.9%
2020	119	75	44	-	-	-	-	-	-	-	-

- ・RU/VH: Research Universities (very high research activity)
- ・RU/H: Research Universities (high research activity)
- ・DRU: Doctoral/Research Universities
- ・表中「-」は、公表データなし、あるいは、筆者未調査

表 1-2

認定年	認定大学	再認定	初認定	公立	私立	公立比	DU/VHR	DU/HR	D/PU	DU, D/PU計	DU, D/PU比
2020	119	75	44	67	52	56.3%	28	13	11	52	43.7%

- ・DU/VHR: Doctoral Universities: Very High Research Activity
- ・DU/HR: Doctoral Universities: High Research Activity
- ・D/PU: Doctoral/Professional Universities

- ・表1-1は初認定大学における公立比とRU比。表1-2は認定大学全体における公立比とDU, D/PU比
- ・CCECの公表データをもとに筆者作成

2006年に導入されたCCECの評価基準の現状を明らかにすることは現在米国高等教育において展開されているCEの方向性を理解することに繋がる。本稿では特に研究大学に注目してCCECの枠組みと認定大学の状況の分析を行うことで米国研究大学におけるCEの動向を探るが、今後の研究課題として、実際に認定された大学がどのような取り組みを行っているのか、CCEC認定枠組と認定大学の実際の取組との差異、CEを推進する上での障害は何か、研究大学がCEを推進する理由は何か、CEの推進が研究大学に実際に何をもたらしているのかなど、具体的な事例研究をもとに検討する際の足がかりとしたい。

## 2. カーネギー大学分類

### 2.1 基本分類

CCECについて検討する前に、それ以前からあるカーネギー大学分類 (the Carnegie Classification of Institutions of Higher Education) について触れておく。カーネギー大学分類は1970年に設定された米国高等教育機関の分類枠組で、1973年に公開され、その後1976年、1987年、1994年、2000年、2005年、2010年、2015年、2018年、2021年に更新されている<sup>3)</sup>。

2005年の改訂では分類カテゴリの細分化がなされ、「基本分類」に加え5つの分類、すなわち学士課程プログラムの分類、大学院プログラムの分類、学生プロフィールの分類、学士課程学生プロフィールの分類、

規模と環境の分類が加わり、より機関の特性が把握できるようになった (福留 2017)。

### 2.2 選択分類としてのコミュニティ・エンゲージメント分類

上記6つの分類は、連邦教育省の高等教育機関データベースであるIPEDS (Integrated Postsecondary Education Data System) に基づく計量的分類である。これに対し、2006年から導入されたCurricular Engagement (or and) Outreach and Partnershipという機関の自己評価をもとにした任意の (選択的) 分類は、機関<sup>4)</sup>を質的側面から分類するものであり、機関はCurricular EngagementとOutreach and Partnershipのどちらか、あるいはその両方で認定を受けられるようになった<sup>5)</sup>。なお、2010年以降は両者を含む形で一本化されている。新しい選択分類は、機関のアイデンティティをより適切に表すために、柔軟で、目的にみあったデータを用い、多面的なアプローチを提供するものであり、CCECに認定されることは、CEを機関のアイデンティティ・文化・公約として組織化したことの証となるものである (Driscoll 2009)。

### 3. CCEC認定経過

#### 3.1. 過去の認定機関

2006年から2020年までのCCEC認定の状況は表1に示したとおりである。

- 2006年の認定機関数は74機関、2008年は120機関である。
- 2010年の分類以降は申請機関数が確認できた。2010年の申請機関数は154機関で、うち121機関が認定されている。認定121機関中、6機関は2006年あるいは2008年の分類で、Curricular EngagementとOutreach and Partnershipのどちらか一方のみ認定され、2010年に他方が認定された機関である。従って、初認定機関は115機関となるが、うち、公立機関は61で53%を占める。また、初認定115機関中、当時のカーネギー分類でDRU (Doctoral/Research Universities), RU/H (Research Universities (high research activity)), RU/VH (Research Universities (very high research activity))にあたる機関は37機関であり、いわゆる研究大学の比率は32.2%となっている。
- 2015年の申請では再分類申請機関が多いのが特徴である。再分類の対象は2008年までに認証された194機関から2010年に再認定された6機関を除く188機関になるが、そのうち、86.2%にあたる162機関が再申請し、96.9%にあたる157機関が再認定を受けている。一方、初認定申請機関数は133、初認定機関数は83、認定率は62.4%であり、初認定のハードルは高いことがわかる(表2参照)。また、初認定機関の内、公立機関は56.6%である(表1-1)。

2015年初認定機関における研究大学の比率をみると、DRU, RU/H, RU/VHにあたる機関は29機関であり、いわゆる研究大学の比率は34.9%となっており、2010年より若干増加している(表1-1)。

#### 3.2. 2020年認定

CCECの目的は、「CEの組織化を通して、大学の教

育的効果を改善するための組織的変革のプロセスを支援すること」。そして分類の枠組(フレームワーク)<sup>6)</sup>は、初認定と再認定では若干異なるものの、CEでの好事例(ベストプラクティス)を反映し、定期的な再認定を通じて、継続的な改善を奨励することである。その枠組は、1. 機関の多様性、CEへのアプローチの仕方を尊重し、2. 機関を自問、省察、自己評価のプロセスに巻き込み、3. 実施中のプログラムを奨励しながら機関の達成を称えるようにデザインされている<sup>7)</sup>。

改めて2020年の認定状況をみると、認定機関は初認定44、再認定75の合計119機関であったが、その内訳は、カーネギー基本分類では52機関が博士課程の研究大学<sup>8)</sup>39機関が修士課程の大学、22機関が学士課程の大学、3機関がコミュニティ・カレッジ、3機関が医療・健康・芸術などの専門課程の4年制の学校となっている<sup>9)</sup>。

2020年の分類認定の特徴として新規の認定機関が44と、これまでで最も少なくなっていることである。新規申請機関数は109であったが認定率も40.4%と低い。新規申請機関数減の要因としては、2006年から始まったCCECについて、CEの取組を積極的に行ってきた機関は2015年までに認定を得たであろうことが考えられる。2015年と2020年の申請機関数と認定機関数を初認定、再認定の別で示したのが表2であるが、2020年の初認定率の低さは、認定のハードルが高くなっていることを示している。

#### 3.3. 研究大学の認定状況

2010年、2015年、2020年のCCECの認定において、RU/VH(2010, 2015)、DU/VHR(2020)に分類される高度研究大学の割合が高いことが表1-1、1-2からわかる。

一方で五島(2019a)は、認定機関において、コミュニティ・カレッジが占める割合が少ないこと、小規模校の認定が少ないことを課題として指摘している。五島2019aに倣い、2010、2015、2020の大学類型別認定

【表2】2015年と2020年の再分類、初分類それぞれの認定率

認定年	初認定			再認定				
	申請機関	認定機関	認定率	対象機関	申請機関	申請率	認定機関	認定率
2015	133	83	62.4%	188	162	86.2%	157	96.9%
2020	109	44	40.4%	121	77	63.6%	75	97.4%

・2015年再認定の対象は、2008年までに認定されていた194機関から2010年に再認定された6機関を除く188機関

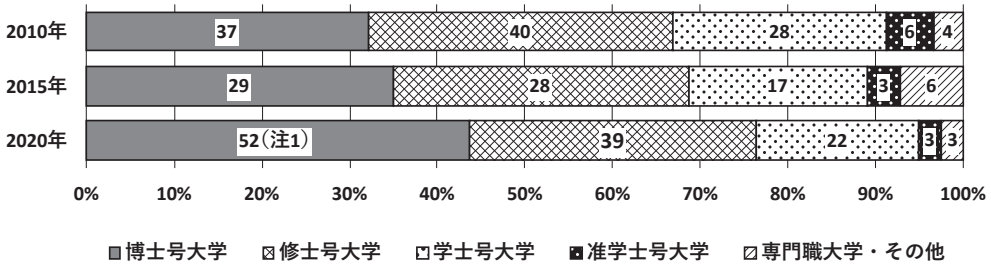
・2020年再認定の対象は、2010年に認定を受けた121機関

校を示したのが表 3 である。2020年分類においてもカーネギー基本分類では多数を占める準学士号大学（コミュニティ・カレッジ）の認定が少ない状況は変わらない。

2020年の公表資料では、2018年のカーネギー基本

分類を用いているため、以前のRU/VHが、DU/VHRとなっていること、また、表 1 - 1 は初認定機関を対象にした数値であるが、表 1 - 2 の2020年は全認定機関を対象にしていることなど留意が必要であるが、DU/VHRが119の認定機関中で28大学と23.5%を占め

【表 3】初分類認定校（2010、2015、2020）の大学類型別割合（校数）



注 1 2020年の博士号大学には Doctoral/Professional Universities を含む（博士号大学：2020年:DU/VHR, DU/HR, D/P; 2015年, 2010年:DRU, RU/H, RU/VH）

CFAT Elective Community Engagement Classification 2010, 2015 Brown University Swearer Center; Carnegie Community Engagement Classification (2020) Classified Campuses から筆者作成

【表 4】2006年～2020年CCEC初認定高度研究大学（DU/VHR）中、THEかQSの2022世界大学ランキングが200位以内の大学

	Institution	State	2006	2008	2010	2015	2020	THE2022	QS2022	AAU	Public	LG
2006	1 Arizona State University	AZ	○	-	-	○	-	132	216		○	
	2 Emory University	GA	○	-	-	○	-	82	160	○		
	3 Michigan State University	MI	○	-	-	○	-	93	157	○	○	○
	4 New York University	NY	○	-	-	○	-	26	42	○		
	5 Tufts University	MA	○	-	-	○	-	172	275	○		
	6 University of California, Los Angeles	CA	○	-	-	○	-	20	40	○	○	
	7 University of Minnesota, Twin Cities	MN	○	-	-	○	-	86	186	○	○	○
	8 University of North Carolina at Chapel Hill	NC	○	-	-	○	-	52	100	○	○	
	9 University of Pennsylvania	PA	○	-	-	○	-	13	13	○		
2008	1 Duke University	NC	-	○	-	○	-	23	52	○		
	2 Georgetown University	DC	-	○	-	○	-	130	248			
	3 Ohio State University	OH	-	○	-	○	-	85	120	○	○	○
	4 Pennsylvania State University	PA	-	○	-	○	-	-	96	○	○	○
	5 Purdue University	IN	-	○	-	○	-	105	116	○	○	○
	6 University of Illinois at Urbana-Champaign	IL	-	○	-	○	-	48	82	○	○	○
	7 University of Wisconsin-Madison	WI	-	○	-	○	-	58	75	○	○	○
2010	1 Cornell University	NY	-	-	○	-	○	22	21	○		○
	2 Indiana University Bloomington	IN	-	-	○	-	○	167	311	○	○	
	3 Rutgers University-New Brunswick	NJ	-	-	○	-	○	190	264	○	○	○
	4 University of Notre Dame	IN	-	-	○	-	○	183	222			
	5 University of Southern California	CA	-	-	○	-	-	63	112	○		
2015	1 Northeastern University	MA	-	-	-	○	-	168	342			
	2 University of California, Davis	CA	-	-	-	○	-	67	108	○	○	
2020	1 Brown University	RI	-	-	-	-	○	64	60	○		
	2 University of Pittsburgh	PA	-	-	-	-	○	140	163	○	○	
	3 University of Rochester	NY	-	-	-	-	○	142	154	○		
	4 University of Washington	WA	-	-	-	-	○	29	85	○	○	

認定年欄の○はCCEC認定を示す

AAU (Association of American Universities) member universities

LG: Land Grant Universities

\*2006年と2008年認定大学は、2010年あるいは2015年に認定された大学に限定

CCEC認定大学リストをもとに筆者作成

ている。

2006年から2020年にCCECに初認定された大学の中でTHE世界大学ランキング2022かQS世界大学ランキング2022の少なくともどちらかで200位以内に入っている大学をリスト化したのが表4であるが、合計で27大学にのぼる。

世界大学ランキングで上位に入る大学のほとんどがAAU (Association of American Universities) の加盟校であり、高度な研究大学がCCECの認定を受けている状況がわかる。高度な研究成果であればあるほど、社会へのインパクトは大きい。高度研究大学のCEの取組が高度な研究そのものを反映しているわけではないが、CEを通じて学生を含めた大学の構成員がコミュニティとの関係を重視する姿勢は育まれる。また、高度研究大学の研究分野の多様性・学際性の高さもCEへの取組の高さに貢献しているのではないかと考える。多様であるが故に、コミュニティのさまざまなニーズに対応できるからである。

また、CCECに認定された高度研究大学の中に、公立大学だけでなく、私立研究大学も多数含まれていることにも注目したい。ランドグラント大学のような州立の大規模な大学はミッションとして地域への貢献が当然求められるが、私立大学においては、立地や大学の歴史とミッションとの関係で、CEの組織化に注力しているものと考えられる。

2020年初認定44機関中、DU/VHRに当たる大学は11大学であるが、THE2022、QS2022の少なくともどちらかで200位以内の大学は4大学、公立、私立半々であった。

#### 4. CCEC分類枠組

##### 4.1. 2020年の分類枠組

CCECの申請プロセスで重要なのは、認証のための分類枠組の基準に至るように、大学が組織的な改革を行うことである。

分類のフレームワーク(分類枠組)は、当初、基礎的指標(機関のコミットメントとアイデンティティと文化)、カリキュラムにおけるエンゲージメント、アウトリーチとパートナーシップの3つの主要カテゴリから構成されていたが、五島(2019a)に詳述されているとおり分類枠組は審査年ごとに変遷している。

認定枠組は初認定と再認定で若干異なるものの、評価する項目自体に大きな違いはない。しかし、再分類機関については、現在のCEの取組に加え、前回の

認定からどのくらい深化、浸透し、より統合され、持続可能になったかを問うている。

具体的にどのような質問項目があるのか。2020年初認定用の分類枠組の構成は、I. キャンパスとコミュニティの文脈、II. 基本指標、III. コミュニティ・エンゲージメントのカテゴリー、IV. 省察と補足情報となっている。

Iのキャンパスとコミュニティの文脈では、キャンパスについて、キャンパスの文化、ミッションのもとでCEがどのように実施されているか、機関の属性、規模、立地、沿革、学生数その他を含めて記載するように求めている。また、コミュニティについても、コミュニティのタイプ、規模、歴史、人口・雇用者数のデータなどを含めてコミュニティとのパートナーシップの文脈で理解するための記述を求めている。なお、分類枠組全体を通じて、すべての記述は500ワードを上限としている。

II. の基本指標は、機関のCEを理解する上で、まさに基本となるものであり、以下のような項目である。( ) 内に質問の概要を示した。

- A 機関のアイデンティティと文化 (ミッション、ビジョン、全学的褒賞など)
- B 機関としての評価 (体系的な評価の仕組み、評価データ収集など)
- C 組織的コミュニケーション (大学のブランド戦略とCE、トップの関与、戦略計画とCEなど)
- D 組織としてのコミュニティとの関係 (組織としてのCE計画へのコミュニティの意見の反映)
- E インフラと財政 (CEを推進するセンターやオフィス、CEを支援するための学内予算や外部資金、資金収集活動、大学からコミュニティへの資金提供、地域経済や地域開発と連携した大学のビジネス活動など)
- F 追跡、モニタリング、アセスメント (機関のCEを体系的に追跡・管理する仕組み、それらのデータの利用、CEの質の定義と測定、組織としてのCEのアウトカムやインパクトを評価する評価機能、それらの評価データの利用、過去5年に機関としてのCEの評価を受けたかなど)
- G 教員とスタッフ (CEに関わる教職員へのFDやSDの実施、CEに関わるスタッフへの大学の支援内容、CE専門スタッフの雇用方針、CE活動が教員の報奨や処遇、採用につながる方針があるか、学部・学科においてはどうか、CEを用いる教員の学術成果を報奨する昇進等のガイドラインの見

【表 5】2020年CCEC 初認定の分類枠組

## Ⅲ. コミュニティ・エンゲージメントのカテゴリー

<b>A. カリキュラム・エンゲージメント</b>
<b>A 1. 教育と学修</b>
CE科目の有無, 科目数, 科目に占める割合, 成績証明書への記載, CE科目を扱う学科数と学科の割合, CE科目を教える教員数と割合, CE科目を教える教員の雇用種別の割合 (テニュア, テニュアトラック, 非テニュアトラック, 非常勤), CE科目受講学生数と受講学生の割合, CE関係データ収集方法と収集頻度, CEによるキャンパスレベルの学修成果の有無と系統立った評価, 評価結果の利用, 学科・学問分野固有の学習成果の有無と系統立った評価, 戦略, 利用法
<b>A 2. カリキュラム</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>CEが次のような活動に統合されているか: 学生の研究, 学生のリーダーシップ, インターンシップ・コオプ・キャリア科目, 留学, 科目に結びついた代替休暇</li> <li>CEが次のような大学全体としてのカリキュラムに統合されているか: 大学院の学び, コア科目, キャブストーン, 1年生の学び, 一般教育, 主専攻科目, 副専攻科目</li> </ul>
<b>B. 準正課カリキュラム・エンゲージメント</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>準正課とは, トレーニング, ワークショップ, 体験学習など, 正式な授業科目外で行われる体系的な学び。互恵と資産に基づくコミュニティとのパートナーシップの文脈において体系的な省察, 学術知識との連動が求められる</li> <li>大学としての取り組みが準正課カリキュラム・エンゲージメントとなったもので次のようなものがあるか: 社会イノベーション/起業, 学外・学内でのコミュニティ・サービスプロジェクト, 国内・国外での代替休暇の取り組み, 学生リーダーシップ, 学生インターンシップ, ワークスタディ, CSRを実践する経営者との面談の機会, レジデンスホール・フロアなど生活と結びついたラーニングコミュニティ, 学生のTA, スポーツ, 寮生活, その他</li> <li>学生が準正課カリキュラム・エンゲージメントを記録しておく仕組みがあるか</li> <li>準正課カリキュラム・エンゲージメントをCE活動に繋げていく道筋があるか</li> </ul>
<b>C. 専門的活動と学識</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>準正課カリキュラム・エンゲージメントに関連してスタッフの専門家としての活動の機会 (会議でのプレゼンテーション, 出版, コンサルティング, 表彰など) があるか</li> <li>科目でのCEと関連して研究, 会議でのプレゼンテーション, 教授法ワークショップ, 出版など教員の学識の例はあるか</li> <li>エンゲージメントの学識と関連して教員の学識, 職員の専門的活動の例はあるか</li> </ul>
<b>D. コミュニティ・エンゲージメントと他の組織的取り組み</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>大学のダイバーシティとインクルージョンの目標にCEが直接的に貢献しているか</li> <li>学生のリテンションと成功のための努力にCEが繋がっているか</li> <li>大学の評価機関や組織がCE研究における人対象の保護について研究者に特別なガイドをしているか</li> <li>学生や教員の広くインパクトのある研究のための連邦政府の助成金を支援するための大学の取り組みにCEが繋がっているか</li> <li>学生が学生有権者の登録や投票を促し測定しているか</li> <li>正課, 準正課プログラムを通じて議論の余地のある社会的, 政治的, 倫理的課題をCEの要素あるいは補完するものとして学生に機会を提供しているか</li> <li>CEの原理や実践を反映するものとしての社会変革や社会起業の正課, 準正課の科目があるか</li> </ul>
<b>E. アウトリーチとパートナーシップ</b>
<b>E 1. アウトリーチ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>どのようなアウトリーチ・プログラム, 機能がCEのパートナーシップ・アプローチを反映しているか: ラーニングセンター, チュータリング, エクステンション・プログラム, 非単位科目, 評価のサポート, トレーニングプログラム, プロフェッショナル・デベロップメントセンター, キャリア支援とジョブ・プレイズメント, その他</li> <li>どのような大学のリソースがアウトリーチとしてコミュニティに提供されているか: 文化的提供, スポーツの提供, 図書館サービス, 技術, 教員によるコンサルティング, その他</li> </ul>
<b>E 2. パートナーシップ</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>直近の学事年度において大学あるいは学部単位でのパートナーシップの代表的事例を最大15まで挙げよ: プロジェクト/協働の名前, コミュニティパートナー, 団体パートナー, 協働の目的, パートナーシップの長さ, 関わる教員数, 関わる職員数, 関わる学生数, 助成金 (あれば), 大学へのインパクト, コミュニティへのインパクト</li> <li>コミュニティパートナーへの次の質問にどの程度賛同するか。(強く否定, 否定, 同意でも否定でもない, 同意, 強く同意) <ol style="list-style-type: none"> <li>コミュニティパートナーは大学に認知されている</li> <li>コミュニティパートナーは大学のエンゲージメントとコミュニティへのインパクトの認識について尋ねられる</li> <li>コミュニティの声を聞き, コミュニティにインパクトのある重要な会議の一員となっている</li> <li>コミュニティパートナーシップで協働する教職員は互恵的なパートナーシップを確実にするために具体的な行動をとっている</li> <li>大学はパートナーシップ, 互恵に関し, コミュニティパートナーから大学, 大学からコミュニティの両方においてフィードバックとアセスメントにおける知見を収集しシェアしている</li> <li>この大学とのパートナーシップは肯定的なインパクトをコミュニティにもたらしている</li> </ol> </li> <li>オープニングエピソード</li> <li>パートナーシップにおける互恵関係を確保するために大学が使っている行動や戦略について述べよ</li> <li>パートナーシップを組む大学が互恵と互いへの敬意, 権威の分担, 目標と成果の共同設定をどのように行うかについての理解が重要であると考える追加の情報を提供いただきたい</li> <li>パートナーシップにおける互恵関係を確実にするために大学や学部は特別な行動をとっているか</li> <li>コミュニティパートナーと大学が相互にパートナーシップ, 互恵においてフィードバックや評価で明らかになったことを体系的に収集し, シェアする仕組みがあるか</li> </ol>

直し作業の進捗など)

上記基本指標は、大学が組織的にCEに取り組んでいるかを測る指標となるものである。Saltmarsh & Johnson (2018) は、組織化されたエンゲージメントとは、(a)エンゲージメントが学生の教育の経験にインパクトを与えること、(b)エンゲージメントが教員の学術的経験、すなわち教育・研究・創造的活動・サービスに統合されること、(c)エンゲージメントがうまくいくために予算、専門的スタッフ、他のインフラを要求することの三つを挙げ、これらの取組に焦点を当てることであるとしている。(a)に該当する教育は、Ⅲ. のコミュニティ・エンゲージメントで問われているが、CCECは、エビデンスに基づく自己評価と、それらの客観的な評価によって、機関のCEの組織化を支援するものである。

分類枠組のⅢ. コミュニティ・エンゲージメントのカテゴリーについては、AからEまでの具体的な質問例を表5に示した。

#### 4. 2. 2024年認定プロセスと分類枠組

ACEのCCECのウェブサイト<sup>10)</sup>によれば、次回、2024年の認定プロセスは以下のとおりである。2015年に認定された機関は、2024年から2026年に再認定が必要とされている。なお、当初10年サイクルでの更新であったが、2020年認定機関が継続して認定を受けるためには6年後の2026年の申請が必要とされている<sup>11)</sup>。

##### ■2024年認定プロセス

22年1月： フレームワーク公開

(申請対象期間はCOVID19の影響を考慮し、AY 2018-19, 2019-20, 2020-21, 2021-22 のいずれかであり)

22年3月～10月： 申請受付

23年5月： 申請期限

23年12月： 認定通知

24年1月： 認定結果公表

##### ■2024年CCEC分類枠組

2024年の初認定の分類枠組を示したのが表6である。

2020年までのような上位カテゴリのもとに下位の質問項目が整理された形式ではなく、14のセクションからなる質問項目が提示されている。しかし、質問内容は、以前と大きくは変わっていない。特徴的と思われる点は、セクション8の「アウトカムとインパクト」が、以前は7の「組織としての追跡、モニタリング、アセスメント」の下位の質問項目の中に含まれていたが、

24年認定では独立している。セクション8の具体的な質問内容は、CE科目を受講した学生の具体的なラーニングアウトカムの例示、CE科目を受講した学生の評価方法と評価方針、評価を踏まえての変更点、準正課科目を受講した学生の成果の大学としての組織的な評価例、CEの成果の大学としての評価方法とコミュニティの評価指標、教員、キャンパスへのインパクト例、これらの評価データの利用例などである。また、セクション12の「学生の能力開発への道筋とコミュニティ・エンゲージメントを通じた学び」は、正課・準正課を通じてのCEによる学生の成長の道筋、CEを通じて学生のリーダーシップや意思決定の役割がどのように発揮されたのか、CEへの学生の参加機会や参加増に対応するためにどんな新しいプログラムのデザインや更新がなされているのかを問うものである。

2024年の分類枠組は構造としては単純化されたものの、あえてセクション8と12の質問を独立させることで、CEの評価において学生のアウトカムや能力開発、さらには大学へのインパクトを重視する姿勢がうかがえる。

なお、2006年に始まった選択分類のための事務局は2005年からマサチューセッツ大学ボストン校ニューイングランド高等教育リソースセンターが担っていたが、2017年からブラウン大学Swearerセンターに移管された。同センターのディレクターであった、Dr. Mathew Johnsonの移籍もあり、2020年7月からはアルビオン・カレッジに移管された。この時の学長がDr. Mathew Johnsonであるが、2021年12月の同学長の退任に伴い、2022年3月からアメリカ教育協会(ACE)に移管されたという経緯がある。

#### 5. まとめと考察

米国大学のCEの取組を測る指標としてのCCECについて、主に2020年の分類枠組をもとに分類指標を確認し、2006年の初認定から2020年の認定までの認定状況を研究大学に注目し概観した。研究大学の認定数が比較的多いのはこれまで述べてきたとおりである。本来は大学の属性に関わらず、CEに取り組むことが求められるが、実際にはCCECの認定が研究大学や大規模大学に偏重している。

CCECの認定を得るには、先に示した分類枠組に対応した取組が評価されるため、大学としてCEに対し人的にも金銭的にも投資が必要であり、大規模大学に有利なことは間違いない。小規模大学であれば、その

【表 6】 2024年 CCEC 初認定の分類枠組

セクション	質問のカテゴリー
1	申請のコンタクト・インフォメーション
2	キャンパスとコミュニティ, コミュニティ・エンゲージメントの文脈
3	コミュニティ・エンゲージメントの関係性の質
4	学術におけるコミュニティとキャンパスのパートナーシップ
5	組織としてのアイデンティティと文化
6	インフラと財政
7	組織としての(キャンパス全体の) 追跡, モニタリング, アセスメント(評価)
8	アウトカムとインパクト
9	教員とスタッフ
10	正課のエンゲージメント
11	准正課のエンゲージメント
12	学生の能力開発への道筋とコミュニティ・エンゲージメントを通じた学び
13	コミュニティ・エンゲージメントと他の組織的取り組み
14	省察と追加情報

2024 First Time Documentation Framework/CFAT をもとに筆者作成

機関のミッションを踏まえて集中的に資源を投入する必要があると思われる。それぞれの大学が戦略計画の中にCEの取組を機関が置かれた環境を踏まえ、いかに組み込むかが重要である。

CCECの認定を得ることは機関のレピュテーションの向上にも繋がるため、研究大学もその威信をかけて、CEに積極的に取り組んでいるという一面もあると考えられる。

これまでみてきたように、CCECの認定を得るには、分類枠組に沿って、各部署に分散した情報を集中的に収集し、膨大なエビデンスを用意する必要がある。このような組織をあげての取組を行うには、機関のトップのリーダーシップが求められることは言うまでもない。

立地や歴史、ミッションとの関係なども含め、各研究大学がどのような意図でCEに取り組んでいるのかは、個別大学ごとのCCEC申請資料の分析や関係者へのインタビューなどを通じて明らかにしていく必要がある。そのことを通じて、CEを組織的に推進する上での課題は何か、CEの推進が大学、学生、教員、コミュニティなどに何をもたらしているのかなどを今後の研究で具体的に明らかにしていきたい。

### 【注】

- 1) <https://carnegieelectiveclassifications.org/the-2024-elective-classification-for-community-engagement/> (2022年9月18日閲覧) CCECのウェブページなどに定義が記載されている。
- 2) 過去2006年からのCCEC認定大学は現在はACE (American Council on Education) のCarnegie Elective Classificationsのウェブサイトから参照できる。

<https://carnegieelectiveclassifications.org/wp-content/uploads/2022/08/Carnegie-Community-Engagement-Classified-Institutions-2006-2020-August-2022-Update.pdf>  
(2022年9月18日閲覧)

なお、以前のCCECのウェブサイトではカーネギー基本分類ごとの認定大学数が閲覧できたが、現在は閲覧できない。

- 3) 以下のCFATのウェブサイトの説明がある。  
<https://carnegieclassifications.acenet.edu/> (2022年9月18日閲覧)
- 4) CCECは、高等教育機関のCEを評価するもので、本稿ではInstitutionを機関と訳しているが、機関=大学ととらえており、institutionを大学と訳している場合もある。
- 5) 2006年と2008年の分類においては、機関はCurricular Engagement (CE) とOutreach & Partnership (O & P) の一方か両方での認定を選択することができたが、2010年の分類以降は、両方のエビデンスを提出することが必要となった。しかし、2008年以前に一方の認定のみを選んだ機関は少数であった。
- 6) 2020年の分類枠組は、現在以下のウェブサイトから入手できる。  
<https://carnegieelectiveclassifications.org/resources-from-2020-cycle-and-earlier/> (2022年9月18日閲覧)
- 7) 以下のブラウン大学Swearerセンターウェブサイトにて2020年分類について説明とリンク情報がある。<https://www.brown.edu/academics/college/swearer/2020-carnegie-classification-cycle-launches-swearer-center-jan-22> (2022年9月18日閲覧)、Driscoll (2018) を参照
- 8) DU/VHR (Doctoral Universities: Very High Research Activity): 28, DU/HR (Doctoral Universities: High Research Activity): 13, D/ PU (Doctoral/ Professional Universities): 11 の計52大学
- 9) 2020年のCCECを担当していたブラウン大学Swearerセンター作成の認定機関リストのシート: Characteristics of Campuses Classified in 2020による。
- 10) <https://carnegieelectiveclassifications.org/the-2024-elective-classification-for-community-engagement/> (2022年9月18日閲覧)
- 11) FAQに以下の記述がある。  
「再認定の対象となる大学は？」



2015年に認定された大学が認定を維持するには、2024年か2026年に再申請する必要がある。2020年に認定された大学は2026年に再認定を受ける必要がある。」

<https://carnegieelectiveclassifications.org/2024-cycle-faq/> (2022年9月18日閲覧)

### 【引用・参考文献】

- 福留東土. (2017). 米国カーネギー大学分類の分析: 高等教育の多様性に関する一考察として. 東京大学大学院教育学研究科付属学校教育高度化センター研究紀要, (2), 117-137.
- 福留東土. (2019). 日本の大学におけるサービス・ラーニングの動向と課題. 比較教育学研究, 2019(59), 120-138.
- 五島敦子. (2016). コミュニティ・エンゲージメントの評価—カーネギー大学分類の選択的分類を手掛かりに—. UEJ ジャーナル, (18), 1-8.
- 五島敦子. (2019a). 米国の大学の地域連携に対する評価枠組—カーネギー・コミュニティ・エンゲージメント分類の意義を中心に—. 大学経営政策研究, 9, 37-52.
- 五島敦子. (2019b). 米国高等教育におけるサービス・ラーニングの発展と課題—大学教員に対する支援に注目して—. 比較教育学研究, 2019 (59), 100-119.
- 杉本昌彦. (2020). 米国研究大学における地域参画活動 (SLCE) を通じた工学分野の学び: パデュー大学EPICSを事例に. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 60, 505-513.
- Boyer, E. L. (1996). THE SCHOLARSHIP OF ENGAGEMENT. *Journal of Public Service & Outreach*, 1(1), 11-20.
- Driscoll, A. (2008). Carnegie's community-engagement classification: Intentions and insights. *Change: The Magazine of Higher Learning*, 40(1), 38-41.
- Driscoll, A. (2009). Carnegie's new community engagement classification: Affirming higher education's role in community. *New directions for higher education*, 2009 (147), 5-12.
- Jaeger, A. J., Jameson, J. K., & Clayton, P. (2012). Institutionalization of community-engaged scholarship at institutions that are both land-grant and research universities. *Journal of Higher Education Outreach and Engagement*, 16(1), 149-170.
- Noel, J., & Earwicker, D. P. (2015). Documenting Community Engagement Practices and Outcomes: Insights from Recipients of the 2010 Carnegie Community Engagement Classification. *Journal of Higher Education Outreach and Engagement*, 19(3), 33-61.
- Plante, J. D., & Cox, T. D. (2016). Integrating Interview Methodology to Analyze Inter-Institutional Comparisons of Service-Learning within the Carnegie Community Engagement Classification Framework. *Journal of Academic Administration in Higher Education*, 12(1), 65-72.
- Saltmarsh, J., & Johnson, M. B. (Eds.). (2018). The Elective Carnegie community engagement classification: Constructing a successful application for first-time and re-classification applicants. *Campus Compact*.
- Saltmarsh, J., & Johnson, M. B. (2018). An introduction to the elective Carnegie community engagement classification. *The elective Carnegie community engagement classification: Constructing a successful application for first-time and re-classification applicants*, 1-15.
- Saltmarsh, J., & Johnson, M. (2020). Campus classification, identity, and change: The elective Carnegie classification for community engagement. *Journal of Higher Education Outreach and Engagement*, 24(3), 105-114.
- Weerts, D. J., & Sandmann, L. R. (2008). Building a two-way street: Challenges and opportunities for community engagement at research universities. *The review of higher education*, 32(1), 73-106.

本稿は、JSPS 科研費 18K02744 「アメリカ高等教育におけるコミュニティ・エンゲージメントの評価に関する研究」(基盤研究(c) 研究代表者: 五島敦子)の成果の一部である。

(指導教員 福留東土教授)